



## 災害に備える

副校長 細井 宏一

9月1日は「防災の日」である。なぜこの日なのか。調べてみると理由が二つあるようだ。一つは、関東大震災が発生した日であること。もう一つが暦の上では二百十日に当たり、これは台風が来襲する厄日とされ、台風シーズンを迎える時期でもあるためであること。S34年に伊勢湾台風で大きな被害がでたことが契機となって、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、防災の日が創設されたそうである。全国各地で災害に備える訓練が行われたので、皆様のお住まいの地域でもそのような取組が行われていたところが多いのではないだろうか。

9月13日(日)に、本校のある「練馬区東大泉」の中村町会の避難訓練が行われ、全体会が本校体育館で行われた。学校周辺にお住まいの方は、震災時には一時(いっとき)避難場所として本校に集まることになっており、その訓練でもあった。東京学芸大学と練馬区との協定が結ばれており、本校としても、地域に役立つ学校になるよう進めているところだ。

その会で、グループディスカッションがあった。論点は、3つ。

(1) 耐震対 (2) 家具転倒防止 (3) 食料の備蓄

これは、阪神淡路大震災の教訓なのだそうだ。

阪神淡路大震災で、残念ながら亡くなられた方の約80%の人の原因は、家屋の倒壊や家具の転倒による圧死・窒息死なのだそうだ。また、怪我の原因は、大半が家具の転倒・落下で、4分の3の人たちが家具やガラスによる被害なのだそうだ。このデータから、耐震対策や家具転倒防止対策は、決して疎かにできない取組であることがわかる。学校でも、ロッカーなどは固定しているが、再度点検する必要もありそうである。



また、(3)の食料の備蓄についても、いろいろ学ぶことがあった。「自助・公助・協助」とよくいうが、地域の食料の蓄えは人口を考えるととても十分であるとはいえないようで、まずは「自助」が大切。なのだそうだ。非常用食料の4大備蓄というのがあるようで、

①米、 ②水 ③カセットコンロ ④レトルト食品

というようである。水は、一人1日2Lと考えて、水と食料は、家族全員分の3日分が確保されていることが望ましいそうだ。(できれば1週間分ということもあった)

また、その備蓄の新しい仕方を教わった。それは、普段まったく使わないところに食べないものをおいておくような備蓄の仕方ではなく、「ローリングストック法」というのだそうだが、普段食べてるレトルト食品やフリーズドライ食品を活用して、しまい込まずに食べながら買い足していく方法というのである。ローリング(回転)とストック(蓄える)で、買いたい食料を少しずつ食べていくため、日常備蓄とも呼ぶそうだ。例えば、一人4日分12食を用意して、この備蓄から1ヶ月に1度の頻度で食べる。食べた分、その都度補充することにすれば、丁度1年でそっくり入れ替わる、というやり方である。しまいっぱなしで「期限切れ」ということを防ぐには、よい方法であると感じた。

先日の大雨で、茨城県、栃木県、宮城県では、河川の氾濫・堤防の決壊等で、甚大な災害が起きている。先日は、少し大きな地震もあった。被災した方々には、心よりお悔やみ申し上げる。

災害はいつ起きてもおかしくない。普段から整えていくことの大切さを感じた。毎年チェックはしているが、この機会に、学校の備蓄品も再点検したいと考えている。皆様のお宅でも、お子様と共に見直す機会とされてはいかがであろうか…。